

サンクチュアリ出版様へ

基本的には「善意には善意で応える」「悪意には毅然たる態度で臨む」ことがベストであると考えます。

世の中にはディズニーランド成功へのやっかみから、ディズニーを批判する者が五万といえます。

そのような輩からの、攻撃の唯一の糸口が「エピソードの著作権問題」です。

私は、ディズニー出身者として、またこの本の著者として、ディズニーランドに体験談をお送りくださった本人に対しては、誠意を持って感謝の念を伝えていく所存です。

反対に、この本によって何らかの損害が生じたと訴えられる方がいらっしゃった場合にも、誠意を持って賠償を行っていく所存です。

目先の「小さな出来事」とらわれず、私たちが社会に大きく貢献している事実を見つめていきたいと私は考えます。

(鶴巻社長はすでに実売数7万冊を超えたようだとおっしゃっていましたが、これだけでも400万円以上の消費税を生み出しているのです。)

さて、ひな形の一例を考えてみました。

悪意とも悪意でもないとも受け取れるメールに対して

〇〇様

この度は弊社へお問い合わせいただき誠にありがとうございます。

また、貴重なご意見を賜りましたことに深く感謝いたします。

お問い合わせの件に関しましては、「最後のパレード」の最終ページ?に記しましたように、それぞれのエピソードは、東京ディズニーランド関連資料、東京ディズニーランド元関係者の談話、東京ディズニーランドのファンサイトの情報などを基に再現したものです。

弊社は、貴重な体験談をディズニーランドに送ってくださったご本人様に対して、感謝の念を表したい気持ちで一杯です。

もし、〇〇様をご本人様をご存知でしたらぜひお知らせください。弊社が誠意を持って対

応させていただきます。

おかげさまで「最後のパレード」は、大好評をいただいております、弊社には「素敵な本をありがとうございます」「人生の宝物にします」という内容の感想のほかにも、「我が家も同じような体験をしました」というエピソードなども数多く寄せられています。

また、株式会社オリエンタルランドの元副社長、上澤昇氏からは次のような書評をいただいております。

一読して「これは生きたマニュアルだ！！」と感じました。

ホスピタリティ（サービスに人間の心が加わったもの）の大切さを 教えてくれる本であり、かつ今のTDRのマニュアルのレベルを遥かに超えたものだと思います。

キャストの人たちの教材に使って欲しい本だと思いました。

著者の中村克氏も今後、雑誌や新聞などを通じ、この本が誕生した経緯についても語っていきたい、と述べられています。

「最後のパレード」出版の趣旨をご賢察の上、何卒ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら〇〇様のご健勝を心より祈念いたします。

<終了>

それでも、ネタ元はどこかという問い合わせには

〇〇様

多くの関係者の談話やサイトに掲載されているエピソードの多くは重複しています。

弊社は個々のエピソードの取材先を明らかにする予定はありません。

諸事情をご賢察の上、ご理解下さいますようお願い申し上げます。

<終了>

中村 克